

今回は「解深密経」(Samdhinirmocana-sutra-3. 4 世紀に現われた)を中心として、仏教思想の中で「心」をどうとらえているかについて考察してみた。

■11月24日

研究発表

地域問題としての原発問題

美ノ谷 和成

(社会科学助教授)

原発の新設あるいは増設が計画されたり予定されている多くの地域では、その原発の新設・増設に対して地域住民は大きく賛成派と反対派に分かれている。これらの地域住民にとって原発問題は、地域問題としての性格をもっている。今回の研究発表は、1980(昭和55)年に新潟県柏崎市で行った統計的調査を中心にして、地域問題としての原発問題をとりあげた。柏崎市調査を分析するにあたって、敦賀市調査(1979年)と浜岡町調査(1981年)のデータと比較しながら、賛成派と反対派の地域住民をそれぞれ3つに類型化して、その特徴について言及した。さらに、1979年3月末にアメリカのペンシルベニア州のTMIでおきた原発事故にかんする情報の地域住民の原発意識の形成や変容におよぼした影響について言及した。

富士の人穴草子試論

小山 一成

(国文学科助教授)

戦国時代あたりに発生したらしい御伽草子「富士の人穴草子」は、江戸時代全期を通じて流行し、遠く明治末年にまで行なわれた。その流行理由は何であったのか、とりわけ近世後期以降明治末年まで写本の頻出する理由は何であったのか、その探究こそ筆者の課題である。今回の研究発表においては、次の諸点を中心に述べた。

- 1) 草子の諸本—これまでに収集しえた諸本の書誌。
- 2) 草子の発生—富士の人穴辺に本拠を置く修験が草子の発生伝播に関わったか。
- 3) 近世後期以降写本の伝播—北は津軽、南は徳島地方に至るまで、書写によって伝播した。
- 4) 近世後期以降写本流行理由—富士を信仰する者の間で新造經典として書写され、読まれ、聴聞されていたらしい。

■1月26日

研究発表

中世紀行文学について

白井 忠功

(国文学科教授)

中世紀行文学の作品(現存・90編か)の研究を続けてきたのであるが、この際、体系的に纏めてみたいと思っていた。幸いに人文科学研究所例会に研究発表の機会を得て、次のように問題を整理し、報告を行なった。

(1) 紀行文学について(概念、ジャンル)。(2) 紀行文学の時代区分。(3) 中世紀行文学の隆盛の理由。(4) 中世紀行文学の分類。(5) 中世紀行文学の特質。(6) 中世紀行文学の表現(文体)。(7) 中世紀行文学年表。

等々の項目を挙げ、先学の諸説を援用し、私見を加えて検討したのであるが、未だに不充分であるのは言うまでもない。項目(多面的に考えるべき)ごとの詳細な考察は当然、中世文学の世界における紀行文学の位置、評価、特色等々の考究も忘れてはならないと思うのである。今後とも考察を続けたい。

オスカー=ワイルド劇の移入について

山本 澄子

(英文学科教授)

オスカー=ワイルド(1850—1900)は未完成の一幕物を含めて、短い生涯の間に九篇の戯曲を発表しているが、わが国で彼の作品が上演されたのはイギリスのアラン=ウイルキー一座によってであった。大正元年11月に来日したその劇団は横浜山手にあった「ゲテ座」で『サロメ』を上演したが、外国人観客にまじって佐々木信綱、萱野二十一、芥川龍之介、久米正雄、大佛次郎、島村抱月、坪内逍遙、松井須磨子ら日本の文学者、演劇関係者の姿もみられた。ウイルキー一座の東京公演は日本における『サロメ』ブームのきっかけをつくったといえる。ワイルドの作品がいつでも優れたものばかりなのにもかかわらず、彼の作品の上演演目で『サロメ』が筆頭なのは、この作品が彼の日本に紹介された最初の作品であったためと、またその内容の反道徳性はその当時の日本の新しいものを求めていた風潮にぴったりとしたのであろう。